



## 刻一刻と迫る

# 南海地震の脅威

### 迫りくる南海地震の脅威

3・11。東日本を襲った「東北地方太平洋沖地震」。03年の「三陸南地震」、05年の宮城地震、08年の岩手・宮城内陸地震など、近年、マグニチュード(M)7以上の大地震が相次いで発生する中、自主防災組織の設置が進み、一人一人の防災意識が急速な高まりを見せた東北地方。しかし、今回の地震は、その現地の人たちの想定をはるかに上回る地震となったことは言うまでもありません。

本町も、地震災害は対岸の火事ではない状況におかれています。近い将来、必ず起こると言われている「南海地震」の脅威が迫っており、それに対する、備えや対策が急務となっています。

南海地震は、南海トラフの最も西にある震源域で起こる地震で、他には「東海」「東南海」という震源域が存在します。そのうち「東海」の震源域で発生する「東海地震」は30年以内に87割の確率で起こると予測

されています。震源地が異なるため別の地震として区別されていますが、東海地震が引き金で、東南海・南海地震が発生する恐れもあります。この3つが連動すると、その破壊力は何倍にも膨れ上がります。

### 大規模災害と二次災害の被害予測

南海地震が発生した場合、ありとあらゆるライフラインが断たれることが考えられます。本町は津波の心配はありませんが、「山津波」の被害が危惧されます。山津波や土砂崩れで道が寸断され、孤立する恐れのある集落は地形的にも数多く存在します。そのような集落が増えれば、行政や消防の救助の手は届きにくくなります。

さらに、火災や交通事故の他、情報の混乱や風評被害などの二次災害を招きかねません。

### 「想定外」を想定する

M8・4と予測されている「南海

### 地震」。

東北地方太平洋沖地震は、M9.0。M7―8クラスの地震の震源域が複数連動して発生したためと考えられています。南海地震も例外ではありません。甘く見てはいけません。連動型地震になることで、想定されたM8・4を上回ることは十分考えられます。

また地震規模だけでなく、「常識」を見直すことも重要です。

▼地震が起きたらすぐに机の下に  
▼高台に登る▼避難場所は近くの体育館または集会所！。

果たして、本当にそれが命を守る上で最善の方法なのでしょうか。

地震の規模によつては机ごと引つ張られ壁や物の間に挟まれる。高台に登ったが、地盤が崩れ巻き込まれた。避難した建物が耐震強度を満たしておらず、生き埋めになった！。

想定していたことや常識を覆されること。それが「想定外」です。

もう一度、個人、家族、職場、地域、全てにおいて命を守る方法を再確認する必要があります。



### 解説

#### ■南海トラフ

四国の南の海底にある水深4千メートル級の深い溝(トラフ)のことで、九州沖から駿河湾まで伸びており、西から南海・東南海・東海地震震源域と区分されている。

#### ■山津波

山間部で見られる津波の様に流れる土石流。山崩れなどで作られた天然ダムが決壊し、一気に貯留された水が流出すること。

#### ■マグニチュード

地震の規模を示す単位。

#### ■震度

揺れの程度を示す単位。